

令和8年産 コメ通信

第7号（令和8年7月15日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課

（電話：0186-62-1835）

ほ場ごとの生育に応じた追肥と水管理を！

1 気象経過と生育状況

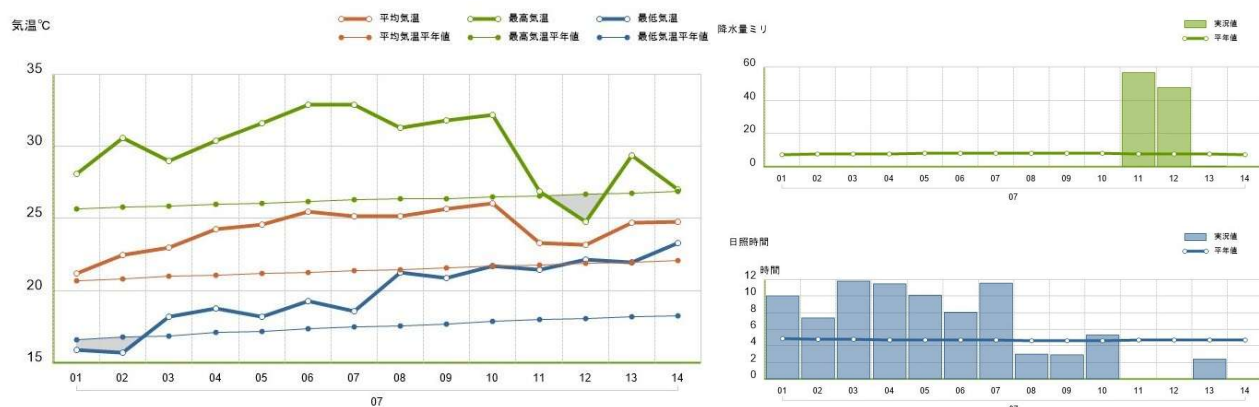


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過】

- 7月5日～10日にかけて、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。以降、11日からは13日を除いて、気温は平年並～低く、降水量は多く、日照時間は少なくなりました。
- 仙台管区气象台発表の1か月予報（7月9日発表）では、向こう1か月は気温が高く、降水量・日照時間はほぼ平年並と予想されています。

【生育状況】

- 7月15日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は平年と比べ、茎数・葉数は多く、葉色が平年並になりました。幼穂形成期は、7月7日（9地点平均）でした。
- 田植え時期や管理管理によって生育状況に差がみられました。暦に従った作業ではなく、ほ場ごとに生育を確認し、追肥の判断や病虫害の適期防除を行ってください。

【減数分裂期・出穂期の予測】

- 日平均気温から算出したあきたこまち（中苗）の出穂期は、平年よりも1～2日程度早まる予測（表2）となっています。今後も高温が予想されることから、さらに早まる可能性もあるため、適宜ほ場を確認し、適切な管理を実施してください。
- ほ場ごとの生育状況を確認し、次ページを参考に追肥の判断や水管理、病虫害の防除を行ってください。

表1 定点調査結果（7月15日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	65.6	596	11.9	41.6
平年	65.7	527	11.4	41.6
前年	70.3	465	11.7	40.3
平年比	100%	113%	+0.5	100%
前年比	93%	128%	+0.2	103%

※平年は、過去10か年平均

※葉色はSPAD-502Plusでの測定値

表2 あきたこまち（中苗）の減数分裂期及び出穂期の予測（アメダス鷹巣）

田植日	減数分裂期（平年値）	出穂期（平年値）
5/15	7/21（7/23）	7/31（8/2）
5/20	7/23（7/24）	8/2（8/4）
5/25	7/24（7/25）	8/4（8/5）
5/30	7/26（7/27）	8/6（8/7）

※7月13日以降は平年値で計算

2 減数分裂期の追肥判断

- 幼穂形成期以降、極端に葉色が低下すると、一穂粒数の減少や有効茎歩合の低下を招きます。生育量が不足している場合や葉色が低下している場合は、減数分裂期まで待たずに窒素成分で1.0～1.5 kg/10 a程度の追肥を行います。

表3 県北あきたこまち理想生育量（減数分裂期）

- 減数分裂期に葉色が濃く草丈が概ね75 cm以上あるほ場では、倒伏する可能性があるので、追肥を控えて倒伏軽減剤の使用を検討します。

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育量 (×10 ³)	栄養診断値 (×10 ³)
上限値	74	529	12.2	40	38.4	15.0
理想値	72	504	12.0	39	36.3	14.2
下限値	69	479	11.8	38	33.9	13.0

3 当面の水管理

- 強めの中干しは根を痛めるため、亀裂が入る状態が継続しているようなほ場では直ちに入水してください。
- 中干しを十分にできなかったほ場では、落水期間をやや長めとする間断かん水により地耐力を高めます。
- フェーン現象の際は湛水管理を行い、蒸散による水分の消耗を軽減します。
- 減数分裂期から穂ばらみ期にかけて、日平均気温20℃（最低気温17℃）以下の日が続く、日照が少ない場合には障害不稔が発生するおそれがありますので、深水管理（水深17～20cm程度）を行い、幼穂を保護します。
- 「あきたこまちR」はカドミウムをほとんど吸収しないため、出穂期前後各3週間の湛水管理は不要です。間断かん水を実施し、土壌を酸化的な条件に保つことで、根の伸長を促進しましょう。
- カドミウム含有米の発生防止対策地域で、「あきたこまちR」以外を作付しているほ場では、出穂期の前後各3週間は水田に常時水を張り、土壌表面を空気に触れさせない湛水管理を継続してください。

4 主要病害虫の防除対策 ～ドリフトに注意！～

※飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください。

※生育が早まっているため、防除のタイミングを逃さないようにしましょう！

【いもち病】

- 病害虫防除所の令和8年度 農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号（7月予報、令和8年6月30日）（以下、発生予報と記載）では、いもち病の発生量は平年並と予報されています。
- 病斑を発見した場合は、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を茎葉散布してください。その後、必要に応じてビーム剤等を追加散布します。
- 7月下旬以降に上位葉で葉いもちの発生がある場合は、①出穂15～7日前にコラトップ剤（粒剤・豆つぶ剤）または、ゴウケツ/サンブラス粒剤を散布するか、②出穂直前にトライ剤またはビーム剤を散布した上で、穂揃い期にトライフロアブルかラブサイド剤を茎葉散布する。①・②のいずれかの方法で穂いもちの発生を防ぎます。

◆農薬の使用回数に注意！

ラブサイド剤（ブラシン剤等含む）の成分である「フサライド」や、ビーム剤（ノンブラス剤等含む）の成分である「トリシクラゾール」の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内となっています。農薬は使用する度に帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

【斑点米カメムシ類】

- 出穂15～10日前まで、畦畔や農道、法面、雑草地等の草刈りを徹底し、斑点米カメムシ類の増殖源を減らします。
- ノビエやホタルイなどのカヤツリグサ科雑草が出穂すると、斑点米カメムシ類が飛来してきます。ほ場内に雑草がある場合は、除草剤の使用時期に注意して除草を徹底してください。

【紋枯病】

- 発生予報では、紋枯病の発生時期は平年よりやや早く、発生量が多いとされています。前年収穫期に発生が多かったほ場は特に注意してください。
- 前年多発したほ場で、本病を対象とした育苗箱施用剤を使用していない場合は、以下の表を参考に、水面施用剤による防除を行ってください。
- 穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は、下表の茎葉散布剤を稲体の株元に到達するように散布してください。

表 4 紋枯病防除薬剤一覧と散布時期

種類	薬剤名（農薬成分回数）	散布時期	使用量・希釈倍数
水面施用剤	モンガリット粒剤	出穂20～10日前	4 kg
	リンバー粒剤	出穂15～5日前	
茎葉散布剤	バシタック水和剤75	出穂直前～穂揃期	粉剤・DL：3～4 kg/10a 液剤：1,000倍 水和剤：1,000倍 [60～150L/10a] フロアブル：1,500倍 ゾル：800～1,000倍
	バシタックゾル		
	バリダシン粉剤DL		
	バリダシン液剤5		
	モンカットファイン粉剤20DL		
	モンカットフロアブル		
	モンセレン粉剤DL		
	モンセレンフロアブル		

5 お知らせ

カドミウム汚染米発生を防止しましょう！！

- 「あきたこまちR」以外の品種を作付しているほ場では、出穂前後3週間の湛水管理を必ず実施してください。
- JA・主食集荷商業協同組合加入業者以外の集荷業者や消費者へ直接販売する場合は、出荷前にロット調査によるカドミウム分析を各自で実施してください。



詳しくは↑

令和8年度農薬危害防止運動（令和8年6月1日から8月31日まで）

近年、全国で農薬の使用に伴う周辺住民等に対する被害事例が発生しています。農薬の使用時は周辺への飛散防止に努めるとともに、農薬ラベルによる使用基準（単位面積あたりの使用量や希釈倍率等）の確認と使用履歴の記帳を徹底しましょう。

熱中症に注意！！

農作業中に熱中症になる人が増えています。こまめな休憩や水分・塩分の補給、帽子・空調服の着用などの対策で、熱中症を予防しましょう。（↑詳細）



ツキノワグマに注意！！

人の生活圏でのクマの目撃件数が増加しています。農作業時は、対策グッズを用意するなど、十分に注意しましょう。



ツキノワグマ情報 | 英の国あきたネット
www.pref.akita.lg.jp

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は7月下旬頃～